

第54回佐賀県人権・同和教育研究大会 分科会【集合・オンデマンド】

人権は、人間が人間らしく生きていくための普遍的な権利です。私たちは子どもたち一人一人の発達段階に応じて、さまざまな学びの場とおし、人権が誰にとっても身近で大切なことであることをわかりやすく、そして根気強く、伝え続けていく必要があります。また、人権を共に認め合い、支え合う社会を築くためには、私たち大人自身も、その社会を形成する当事者としての視点を持って、考え、判断し、行動できることが求められます。

教育長 一部抜粋・紹介

あいさつ(佐賀県教育委員会 甲斐直美)

10月24日(金)鳥栖市、基山町、みやき町の3市町5会場にて、オンデマンド配信の参加者も含め、総数として、1045名の参加がありました。

一人一人の人権を共に認め合い、
支え合う社会をつくろう！
未来を担う子どもたちに確かな学びを
鳥栖・基山・みやきの地から

11/10～12/10
オンデマンド
配信

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上927番地 佐賀県教育センター 中研修室棟内
TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

この研究大会分科会に参加されたお一人お一人の出会いが、人権・同和教育の豊かな学びや今後のさらなる充実・発展、そして、多くの子どもたち、大人たち、誰もが笑顔であふれる社会の実現につながっていくことを願い、挨拶いたします。

あいさつ(佐同教会長 松本定) 一部抜粋・紹介

本研究大会にご参加いただき、ありがとうございます。また、日頃より、差別の解消と一人一人の人権が大切にされる社会の実現をめざして、ご尽力いただいておりますことに感謝申し上げます。

冊子の表紙をご覧ください。「差別もいじめもふやらずに 笑顔をとくさんふやそうよ」という「ことば」とともにたくさんさんの笑顔が描かれています。本研究大会分科会は、人権・同和教育・啓発の実践報告並びに実践交流の研修会としては、県内最大の研修会です。新たな行動につながる豊かな出会いや学びの場になりますことを祈念して、挨拶いたします。

第1分科会 行動につながる学びづくり(人権啓発)会場【基山町民会館】(大ホール)

- ① 部落差別解消に向けて教育・啓発・相談体制づくりをどのように進めているか、学び合いましょう。
- ② 人権問題を解決するために、どのように人と人とのつながりをつくっているか、学び合いましょう。
- ③ 人権意識を高めるために、どのような活動をしているか、学び合いましょう。

【実践報告Ⅰ】「持続可能で暮らしやすいまち 江北を」江北町における人権教育・啓発の取り組みと課題

【実践報告Ⅱ】アイを求めて未来へ歩む

鳥栖・基山町はアイがいっぱい！

【実践報告Ⅲ】おもしろくて、ためになる学びをあなたに届けます 伊万里市における社会同和教育の現状と課題

【参加者のアンケートより感想・意見等】

・第1分科会を通して、行政による学校への支援の具体的な取り組みを知ることができました。学校だけでは対応が難しい課題について、地域や関係機関と連携して進めていくことの大切さを改めて感じ、心強く思いました。

・参加者の意見で、「どこの部署でも人権の学びはできる」と話されたことがとても印象に残り、納得し

ました。すべての業務が人権につながっています。
 ・知らなかった市町独自の取り組みが分かり、人を大切にしてあることが伝わってきました。人に優しい市町だから、人口も増えてきているのだらうかと思いました。伊万里市の「人権かわらばん」をぜひ視聴したいと思いました。思いの詰まった「さがすたいる」の話を聞くことができて、充実した時間でした。



・学校にいくと、視野が狭くなりがちですが、今日の分科会のおかげで、行政の活動がよくわかりました。活動以上に頑張りが伝わってきました。グループ討議では、市役所の方と話すことができて、情報交換もすっかりとできました。

第2分科会 子ども支援・家庭支援(人権が尊重される環境づくり)

会場【サンメッセ鳥栖】(ホール)

① 厳しい状況にある子ども・家庭の支援、学校や地域、関係機関による連携について交流しよう。

② 子どもたちが安心して過ごせる環境づくりについて学び合おう。

【実践報告Ⅰ】学校全体で進める人権・同和教育
 ・相知中学校の取組

【実践報告Ⅱ】互いに認め合い、つながり、支え合う児童の育成
 ・学校行事の実践的な活動を通して

【実践報告Ⅲ】多様性を尊重した教育環境の整備
 ・不登校・発達障害等のある生徒を含めた全ての生徒の学びの保障

【参会者のアンケートより感想・意見等】

・発表、報告者の先生方の取組は、もちろん、学校全体の取り組みが重要であるのが伝わってきました。職員の共通理解と実践できる学校づくりを進めていかなければならないことを、改めて感じました。

・実践発表で、それぞれの校種で生徒が主体的に行動し、挑戦できる環境づくりをされていると感じました。学校環境づくりを行うためには、学校全体で同じ目的や共通理解が大事だと再確認しました。

・教師が家庭に入っていくことの難しさを感じている中で、小中学校のSSWとの連携の事例を知れたことは良い学びとなりました。討議を通して、生徒が自ら考えて安心できる環境を作っていくきっかけや手助けを行うのが教師なのかなとも思いました。

・小さな集団の中で固定されがちな人間関係を、いかにして思いやりのある集団にしていくのかを示していただきました。本校も小さな学校なのでとても参考になりました。



・同じ校種の先生の実践報告に参加でき、イメージや自分の学校との比較もでき、今後の学校教育に生かしていこうという思いがより一層深まった。

・校種を超えた実践発表を聞けたり、グループワークがあったことによって、発達段階を意識しながら学校という大きな枠組みで全体的に取り組んでいくこと、また地域や関係機関を巻き込むことが子どもたちの「できない」を「できる」に変える一歩なんだと感じることができました。

第3分科会 子どもどうしをつなぐ仲間づくり(人権が尊重される人間関係づくり)

会場【サンメッセ鳥栖】(3階大会議室)

① 子どもたちが、「見つめる」「語り合う(伝え合う)」「つながる」ために、どのような取組が有効なのかを明らかにしよう。

② 一人ひとりを大事にした仲間づくりのために、わたしたちが大切にしたいことは何かを明らかにしよう。

【実践報告Ⅰ】子どもたちを豊かにつなぐ人間関係づくり

・一人一人の個性を認め、支え合う集団づくり

【実践報告Ⅱ】クラスの絆を育む3年間の歩み

【実践報告Ⅲ】つながり合う集団づくり

【参会者のアンケートより感想・意見等】

・人権について考えることは、学級経営、子どもたちの人間関係づくりにつなぐと考えました。3人の先生方のお話を聞いて、私も似たような悩みがある部分もあったので、今後参考にしたいと思います。

・アイスブレイキングや司会、グループ討議の準備やまとめ、細やかな進行準備、充実した研修でした。

・最後の討議については、小学校や義務教育学校の状態や取り組みも詳しく聞けていい機会となりました。今回の研修は人権・同和教育担当としても特別支援学級担任としても、深い学びとなりました。どの実践発表においても、子どもと先生との関係づくりが一番土台にあることを感じました。良いところ見つけの実践は、今までも行ってきましたが、そこへの教師の意図や思い、また継続して行なっていくこ

とが大切だと思いました。3人の先生方の子どもへの向き合い方を参考にして、自分のクラスの子どもたちへの教育活動へ生かしていきたいと思っています。

・学ぶことによって、自分自身の意識や行動を振り返り、つながることが大切だと、人権・同和教育の原点にかえった気持ちになりました。3人の報告者の実践、本当に素晴らしかったです。

・組織的な人権・同和教育の取り組みや個々の教師の子どもたちに対する取り組み等、参考にさせていただくことがたくさんあり、勉強になりました。

第4分科会 人権・部落差別解消のための学習(人権が尊重される学習活動づくり)

会場【みやき町農村環境改善センター】(多目的ホール)

① 差別の理不尽さに気づき、人権課題を自分自身のこととして考える人権・部落差別解消のための学習のよさについて話し合おう。

② 学びや出会いによって子どもたちに生まれた思いを、将来への展望・希望へとつなげ、行動や発信をしていくに私たちが大切にしたいことを交流しよう。

【実践報告Ⅰ】外国語活動・外国語科における「多様性の尊重」をめざして

・異文化理解に関する取組を中心に、

【実践報告Ⅱ】理不尽なことに立ち向かう心を育む教材「つむじ」の学習を通して、

【実践報告Ⅲ】「自分ごと」として取り組めた「部落差別を解消するための学習」・「わたし」も「子ども」も、アップグレードできた授業実践の取組を通して、

【参会者のアンケートより感想・意見等】

・自分自身の人権感覚をアップデートすることができました。さまざまな教科から、計画的に人権・同和教育を進めていくことが大切だと思いました。

・3人の先生の実践報告、いずれも充実した内容で敬服した。報告に対するサポート体制のすばらしさを含めて、佐賀の人権・同和教育・啓発の現状と将来に希望を抱いた。課題としては、モデル授業や実践のサポートを充実させ、拡げていき、県内全ての学校で実践が行えるようにすることだと思う。

・若い先生が熱心に取り組まれていることに感心した。各教科で教材を工夫しており、45分で深く考えさせる取組が参考になった。普段の日々の活動でいかに実践行動にうつせるかが課題かなと思った。

・学びの多い実践報告で、刺激をいただきました。グループ討議でも、肩の力を抜いて日頃抱えている問題を話したり、聞いたりすることができました。

・どの発表も、子どもたちの心身の健やかな成長を支え、未来につながる取り組みだと感じました。毎日の学校での学習の積み重ねの上に、『正しい人権意識』が育っていくことを私自身再確認しました。

・人権・部落差別解消のための学習となると「正直重い感じがして触れにくい」と思うところがあり、敬遠してしまうところが自分自身にある。しかし、今日の実践発表で、子どもたちへのアプローチや教材の切り口を変えることで、子どもたちの心に「ストンと落ちるものなのだ」と感じた。もちろん、日頃の学校での生活に生かされるよう、教師自身が意識することも大切だと思う。

第5分科会 市民活動・企業活動交流(人権のまちづくり)

会場【みやき町コミュニティセンターこすもす館】(多目的ホール)

① 「人権のまちづくり」の実現に必要なさまざまな情報を共有しよう。

② 「語り合う」場をどのようにつくり出していけばいいのかを学び合おう。

③ 課題解決のために「困難」を乗り越え、「喜び」や「やりがい」に変えていった実践に学び、自分たちの生活にどう活かしていくか考え合おう。

【実践報告Ⅰ】手をつなぐ

・つながりがチカラになる、

【実践報告Ⅱ】ひとりじゃないよ・過去と人は変えられないけど、人の頑張りは応援できる、

【実践報告Ⅲ】未来へつなぐ支援・地域コミュニティでこどもを育む居場所、

【参会者のアンケートより感想・意見等】



・私は普段の業務で小学生と触れ合う機会がなく、社会問題として目にしてきたものの、具体的な取り組みを知らなかった活動が多く、防災訓練会等とされていると知り、社会教育課の文化財係として協力できることが学校外の団体で町内にもあるのでは?と新たな気づきを得ることができ、今後活かせるお話が伺えて勉強になりました。

・第5分科会「人権のまちづくり」では、市民活動と企業活動が交流し、共に人権尊重を推進する実践

報告に感銘を受けました。両者が連携することで、地域社会全体に人権意識が深く根付くことを学びました。私も、立場を超えた『協働の重要性』を認識し、日々の活動に活かしていきます。

・活動を続けていくための課題も知ることができ、その解決に向けて自分にできることはないかと考える機会となりました。互いに支え合う社会を築くためには、「知ることがとても大切だ」と思いました。子どもたち、それぞれに合った自立を考えると、良き大人や施設が必要だと思いました。教師として、この子と笑顔でいたいけど、どうしたらいい？と考える日々です。将来のことを思うと、保護者として、この子に合った大人に会わせるためにいろんな体験をして世界を広げてあげるのもいいかもしれません。

2025年度「佐賀県人権保育研究集会」 (オンデマンド)

「佐賀県人権保育研究集会」が10月28日(火)～11月27日(木)の期間で、オンデマンド研修にて開催されました。(422名の申し込み有り)

こども家庭庁の理念



講師として大阪教育大学教授の小崎 恭弘さんを迎え、「保育施設における子どもの人権」という演題で、お話をいただきました。

こども家庭庁は、『はじめの100か月の育ちビジョン』を提唱しています。人が生まれてから、小学校一年生までの重要な時期に、子どもたち一人ひとりが健やかに育つことができるよう大切にしたい内容

のことです。『こども基本法』も踏まえて、講師の小崎 恭弘さんは次のように話されました。

子どもの育ちには、「安心」と「挑戦」の繰り返しが必要であり、そのためには、豊かな体験と遊び、そして、アタッチメント(愛着)が前提となるのです。

また、おとなが不機嫌であることは、子どもにとっての環境破壊となり、子どもの育ちを阻害する要因となり得るのです。『昭和の価値観』を全て否定はしないものの、『不適切な保育』とならないためにも、子どもの意見の尊重や子どもにとっての最善の利益を考えることで、子どもも保護者も共に育つのです。子どもの権利を守ることは、私たちの未来を守ることにもつながります。(講演内容の一部抜粋・紹介)

【オンデマンド研修 参加者のアンケートより感想】
・子ども一人一人の人格を尊重し、育ちや家庭環境への配慮をすることが大切だと分かった。子どもの人権に配慮した教育になっているか、常に全職員で確認することが必要です。

・「保育や教育は家庭の代わりではなく、家庭を支える共有の場である」という思いに、強く共感しました。今後、自分自身も子どもと保護者の背景を感じながら『誰もが安心してできる保育、教育のあり方』を意識していきたいと思った。

・子どもの最善の利益とは、答えを出すことではなく、その子の思いに寄り添い、共に考え続ける姿勢だと考えた。

・特に心に残ったことは、『西東京市保育の質のガイドライン』です。主語を子どもとして考えることで、『何が大切なことなのか』をしっかりと考えることがで

きると思いました。

・保育とは、人権を基盤に据え、養護と教育が一体になった専門的な活動だということが分かりやすく話され、改めて、保育という仕事に誇りを持ち、目の前の子どもたちに向き合いたいと思いました。

・自分が「されて嫌だ」と思うことはしない。自分がしてほしいと思うことを意識し、高い倫理観を持ってやっていく。自分の保育を見直し、声かけや支援を、子どもに寄り添いながらやっていこうと考えている。

・人は生まれた瞬間から人格のある人間で、一人の人として尊重していかないといけない」という講師の言葉を、園の職員で共有していきたい。また、自身の言動、行動を意識し、『不適切保育』にならないよう、常に振り返りをしていきたい。

【2025年度 実践交流会】について

・開催期日 2026年1月13日(火)

・開催場所 小城市 牛津公民館

・開催時間 14:00～16:30

・報告者 小城市 市民部 人権・同和对策室
人権教育指導員 菖蒲 善之さん

・報告者 一般社団法人 佐賀県部落解放推進協議会 調査啓発員 徳田 繁範さん

・報告内容 「日々の実践とその歩み」

・差別を見抜き、許さない行動のために、報告者からの学びと、参加者の方々が、互いの実践について交流を行い、学びを深めていくことができました。ありがとうございました。